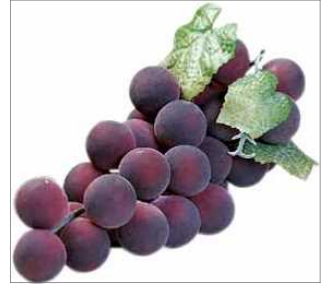


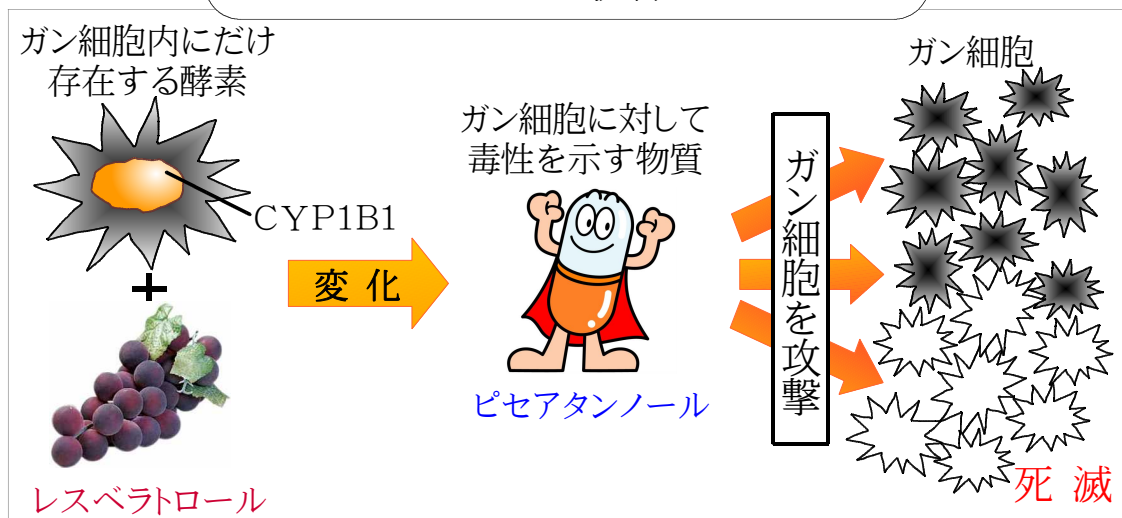
レスベラトロール

ブドウの皮に含まれる「レスベラトロール」に“抗ガン作用”があると云われています。ガン細胞中に存在する「CYP1B1(シップ・ワン・ビー・ワン)」という酵素が「レスベラトロール」を代謝すると、「ピセアタンノール」という、“ガン細胞を死滅させる物質”に変化させる事が試験管実験で明らかになっています。

「ピセアタンノール」が滞留した部位では、健全な細胞は全く無傷のまま、ガン細胞のみが死滅するという結果が示されています。この「レスベラトロール」の発ガン抑制効果が発見された以後、この「レスベラトロール」の発ガン抑制効果を裏付ける多くの研究が行われ、イギリスのゲイリー・ポッター教授らがこの抑制メカニズムを解明しました。



レスベラトロールの抗癌メカニズム



発がん過程を3段階で抑制

1997年、世界で最も権威がある学術雑誌のひとつである「サイエンス」誌に、「レスベラトロール」の抗ガン効果についての論文が発表されました。それによると、レスベラトロールが、発ガンプロセスの主な3つの段階である、ガンの初発期（イニシエーション）、促進期（プロモーション）、悪性化（プログレッション）の3段階の全てに於いて、抗ガン作用を示すことが明らかになりました。まず、レスベラトロールには「抗酸化効果」があるため、紫外線や発ガン物質によって発生した「活性酸素」による過酸化脂質の生成を抑制し、正常な細胞が変異を起こす初発期（イニシエーション）において抑制効果を発揮します。次に、「抗炎症作用」によって変異細胞がガン細胞へと変化する促進期（プロモーション）を抑制、更に、ガン細胞が分化する悪性化（プログレッション）も抑制する事がわかりました。又、マウスによる皮膚ガンのモデル実験では98%もの抑制効果が確認されました。

その後もレスベラトロールによるガン細胞の細胞死（アポトーシス）による研究報告や、レスベラトロールの経口投与によって、ガン細胞の増殖・転移が抑制されたラットの実験報告など、レスベラトロールの発ガン抑制効果を裏付ける多くの研究が報告されています。

心筋梗塞、脳卒中のリスクを下げる

血液中のLDLコレステロールが酸化され、酸化型LDLコレステロールが蓄積すると動脈硬化の原因となります。

「レスベラトロール」は、1ml当たり2.2μlでヒトのLDLコレステロールの酸化を70-80%抑制します。また、血液中の血小板が異常に凝集

すると血管内に“血栓”ができるため心筋梗塞などの原因となりますが、「レスベラトロール」は血小板の凝集を抑制すると報告されました。

